

2013年度 白梅学園大学地域交流研究センタープロジェクト報告

はじめに

白梅学園大学附属地域交流研究センタープロジェクト（以下「研究プロジェクト」）は2009年度に附属の幼稚園立替に伴い、地域との交流をどのように進めるのかを研究的にすすめることをめざして設立された。プロジェクトのテーマは「遊びと学びのコラボレーションによる地域交流活性化システムづくりに関する研究—大学附属幼稚園を拠点として—」となっている。

研究を進めるにあたって5つのプロジェクトを立ち上げ、完成年度にはそれらのプロジェクトを統合した地域交流のシステムづくりを目標としてきた。今年度は5年間の文部科学省からの補助期間の最終年度のまとめを作成した。プロジェクトは以下の通り。それぞれの内容については報告書に記載されており、そちらを参照していただきたい。

- ①生涯遊び心の形成による内面的地域活性化に関する研究（小松歩代表）
- ②地域世代間交流による地域活性化に関する研究（草野篤子代表）
- ③多文化交流・児童文化研究（瀧口優代表）
- ④障がいのある子もいない子もワークショップ実践研究（杉山貴洋代表）
- ⑤食育でつなぐ幼稚園と生活科教育における研究（林薫代表）

1年間を振り返って

各プロジェクトはそれぞれのテーマと目標に沿って取り組みをすすめて、5年間のまとめを意欲して議論を重ねてきた。特に5つのプロジェクトをどのように統合し、地域交流研究センターにふさわしいものにしていくのかを議論してきた。

10月には文部科学省へ5年間のまとめの概要を作成して送り、以後は冊子の作成にむけて5つのプロジェクトのまとめを行ってきた。

まとめを通して地域交流研究センターの在り方について様々な意見が出され、3月16日に行った公開研究会では、5つのプロジェクトの報告に対して、大学として地域に対して何をすべきかの議論が出された。地域交流研究センターとして追及してきた「遊び」と「学び」のコラボレーション、地域社会の確立に役立つ発達環境づくり、循環型の地域交流システムづくりは、まだ始まったばかりであるが、大学に地域貢献が求められる今日、白梅の地域交流研究センターはその中心となって実践と研究をすすめるなければならない。

地域交流研究センターのこれから

研究プロジェクトでは5年間の積み重ねを通して「街づくり」も視野に入れた研究プロジェクトが進められてきている。大学周辺の地域を小さなブロックに分け、どのような人間のつながりを作っていくといいのか、今後予想される大規模な災害時に、お互いが意識しないで助け合う人間関係を構築していくこと、白梅学園大学地域交流センターが、交流から人間の生涯発達を研究するセンター（例えば生涯発達研究センター）として位置づいた時、文字通り、地域の循環型地域交流推進を担うものとなっていく。更にその生涯発達研究センターに保育や福祉、あるいは教育を学んだ学生が参加して地域づくりを行っていくことなども視野に入っている。なお2014年度は以下の構成で進めることになった。

◆ 障がいのある子もない子もワークショップ
研究（杉山代表）プロジェクト

◆ 食育でつなぐ幼稚園と生活科教育における
研究（林代表）プロジェクト

◆ 総合的な地域交流推進研究（小松代表）プ
ロジェクト

：3つのプロジェクトを統合し、遊び、世
代間交流、多文化共生（児童文化）をキー
ワードにした取り組みを行い、小平市西地
区地域ネットワークとの連携をすすめる。

* あらためて研究員の参加を呼びかけ、全教員を
地域交流研究センターに位置づけるようにして
いく。

（文責：瀧口優）